

令和 6 年 9 月 定例会一般質問

通告 9

質問 町長が健康づくりのリーダーシップを

答弁 リーダーシップをとることは当然と考えています

9 番 まつの みやこ 松野 美哉子 議員

【質問：松野 美哉子 議員】

9 番、松野美哉子でございます。町長が健康づくりのリーダーシップをについて質問させていただきます。

人生 100 年時代と言われている昨今であります、やはり病、物価の上昇、災害発生の心配などで、決して生きやすい世の中とは言えなくなっております。

しかし、どんな時代でも健康に過ごせることが、それぞれの生活を前向きに生きていく必須条件であり、2000 年、平成 12 年には厚生労働省より健康日本 21 が新世紀の道標となる健康施策を表しました。健康日本 21 の施策は 30 年続いており、第 1 次、第 2 次の経緯を踏まえ、本年 2024 年に始まる第 3 次の基本となる 4 項目が打ち出されております。健康寿命の延伸と健康格差の縮小、個人の行動と健康状態の改善、社会環境の質の向上、ライフコースアプローチを踏まえた健康づくり、今日までメタボリックシンドローム、メタボ、または、ロコモティブシンドローム、ロコモ、サルコペニア、フレイルなどの状況の改善を進めてまいりました。

当町でも健康診断を受けることや保健センターの事業の中で、なかなか健康なかしべつや体育館での事業などにより健康活動への参加者はいるものの、近い将来には町民の高齢化、生産年齢人口の減少など、町を支える方々の健康な社会を目指すことが、これからの当町だけではなく、日本全体の課題となっていると言えます。

健康づくりは、もはや 1 人の意識や行動に任せるものではなく、また、行政だけが背負うことでもなく、それぞれの町民を取り巻く環境の対応ができるような小さな社会による提案をすることが求められているのではないのでしょうか。

個人から家庭単位、個人から御近所単位、個人から職場単位と、諦めずに小さいことからこつこつと続けることで、仲間がつながり合える仕組みがつくられて、そこに楽しみを感じられるまちが生まれる。



地域とつながって健康になろうと動き出している東京の町内会、会社、町があります。例えば東京では、健康づくりの活性化及び都民の社会参加促進を図ることを目的として、地元から発信する健康づくり支援事業の実施を行っております。

当町でも少子高齢化が進み、高齢者の健康づくりの計画はありますが、これからの町を支える方々も含み集える場所が必要で、顔の見える距離で魅力のある地域づくりのために、全町民に顔の知られている町長が、各町内会を10分間、一緒に歩きましょうと、インパクトのある行動で、一つ目に健康づくり、二つ目に地域への参加促進、三つ目に町内会活動活性化にもつながるリーダーになってはいただけませんか。町長のお考えをお聞かせください。

【答弁：町長】

松野議員御質問の町長が健康づくりのリーダーシップをについて、御答弁申し上げます。

議員御説明のとおり、健康日本21につきましては平成12年に制定されまして、生活習慣病の一次予防に重点を置いた健康づくりを、平成25年には健康寿命の延伸及び健康格差の縮小を目標に健康日本21第2次が制定されまして、そして、令和6年から健康日本21第三次が策定されまして、誰一人取り残さない健康づくりを推進されているところでございます。

本町におきましても健康日本21などを踏まえ、平成17年度に中標津町生活習慣病予防計画、健康中標津21を策定し、また、平成23年3月には中標津町健康づくり推進計画、なかなか健康なかしべつを策定し、令和3年度からは令和12年度までの10年間の期間として、第2次中標津町健康づくり推進計画、なかなか健康なかしべつを策定したところでありまして、自分自身や家族地域、関係団体、行政の役割や取組を明らかにして連携することで、社会全体で健康づくりの推進を図り健康まちづくりを目指すとしており、健康教室や相談、なかなか健康なかしべつポイント事業による健康診査の受診の促進や各種体育施設の利用、自身による健康づくりの目標を立て達成することでのポイント獲得を図るなど、様々な取組を行っております。

また、第7期中標津町総合計画の前期基本計画におきましても、健康づくりの推進を挙げており、健康で自分らしく豊かな人生を送ることを目標に子供から高齢者まで町民の健康づくりを目指しているところから、健康づくりのリーダーシップをとっていくことは当然というふうに考えております。

私自身、自宅から総合文化会館で行われておりますラジオ体操に参加するためできる限り歩くなど、健康に留意をしているところでありまして、町民の皆さんにおかれましても、

一人一人が健康づくりに興味を持つとともに、それぞれの健康感に基づき、主体的に取り組んでいただきたいと考えておりますので、御理解をお願いいたします。

【質問：松野 美哉子 議員】

再質問いたします。

町長の御自宅から総合文化会館まで歩かれ、ラジオ体操に長きにわたり参加されていらっしゃることは敬意を表します。

子育てや仕事に忙しい年代の方々は、全国的にも運動機会が少ないと言われております。身近に町長が町内会をめぐり、歩きましょうと行動し身近に感じていただき、町民から動き出すきっかけになり、その波及効果を思っの質問でありました。

本日の町長の所信表明の中でも、町長の施策の基本としての考えを集まるまち、つながるまちをトータルバランスに整った生活環境を維持していくことを表明されました。

健康づくりのそのことで、先ほどの町長の答弁では、健康づくりのリーダーシップをとっていくことは当然のこととお考えもいただきました。今までやっている町長の御自身の活動でありますラジオ体操の活動に、折に触れてしるべっただけではなくて、町内あちこちで行われているラジオ体操会場に足を運ばれて、そこで町民の方を励ますような取組を小さいことからこつこつと考えてはいただけないでしょうか。町長、いかがお考えでしょうか。

【答弁：町長】

再質問に御答弁申し上げます。

私自身、ラジオ体操に実は通っておりまして、若い時からやっているわけではなくてですね、やはり、ある程度年齢になりますと、健康づくりをしないと、どうもやはり立ち行かなくなるなというふうには気づいたところでありまして、それから始めたところでございます。他の地域のラジオ体操でございますけれども、町内会でも夏休みになりますと子供たちを集めてラジオ体操したりすることがございます。これは割と多くの町内会でやっております、以前はそういった町内会をですね、日ごとに変えて回ってですね、挨拶しながらラジオ体操をしたという経験も実はございます。

基本的には歩いていくというのは基本にしておりますので、あんまり遠いとちょっと行けないのでありますけれども、なるべくですね、そういった機会を見てですね、顔出ししながら、地域の中でみんなでラジオ体操しましょうというのは、体で訴えていきたいと思っておりますので御理解をよろしく申し上げます。